

「お達者度」男性 1位・女性 3位に輝く

8月3日、県は市町別の「お達者度」（2013年版）を発表し、川根本町は、男性が18年9カ月で1位に、女性が21年10カ月で県内3位に輝きました。お達者度は、65歳から元気で自立して暮らせる期間を算出し市町別に示した指標のことで、本町の昨年順位は男性が2位、女性が4位でしたが、男女とも順位が上がりました。

県健康増進課は、上位市町の傾向として「適度な運動」「多世代同居や働き世代との交流が多い」「社会参加の機会がある」といったことが挙げられると分析しています。

誰もが気軽に集える場でいきいきと

9月5日、瀬平区集会所では「ケアラーズカフェ」が開催され、崎平区から地名区までの37人が参加しました。ケアラーズカフェは、家族を介護している人に限らず、さまざまな立場や世代の人たちが集い、お互いがケアラー（＝支える人）となって気軽に交流できる場となっています。

この日は、掛川市で接骨院を営む田旗敬造さんを講師に迎え、座ったままでできる簡単な体操を実践しました。雑談を交えながら終始和やかな時間の中で体を動かし、質問タイムでは参加者が「朝起きると腰や背中が痛む」と話すと、田旗さんは「いきなり起き上がるのではなく、まずは寝床の中でゆっくりストレッチしてみましょう」とアドバイスしていました。

植村哲司さん（瀬平区＝77歳）は「地区で役員をやっているから、という理由もあるけど、自分の健康づくりのためにもできるだけ参加するように心がけている。男性メンバーは固定してきたから、もっといろんな人が来るようになるといいね」と笑顔で話しました。

学界からも注目される「健康寿命」

この日は、アメリカのジェームスマディソン大学で地域コミュニティと健康寿命の関係性を研究している田仲希三子氏が訪れ、参加者にアンケート調査を実施しました。田仲氏は「欧米では、人口が少ない地域ほど、健康寿命が長く健康への意識も低いことが多い。今回の調査で、地域内での支え合いが健康寿命に与える影響を解明できれば」と期待を寄せて話しました。



▲新聞紙を丸めた棒を使って体操



▲この日は7人の男性陣が参加した



▲アンケートを実施した田仲氏



第70回全国茶品評会審査結果

「相藤園が1等を受賞、産地賞(普通煎茶4^キ)は2位」

第70回全国茶品評会が三重県鈴鹿市で行われ、普通煎茶4^キの部で相藤園 相藤令治さんが1等4席を受賞しました。

相藤さんは「関係者の皆様のご協力で出品できたので、とても感謝している。産地賞に届かなかったことは残念だが、町内からの出品茶が多く入賞し、川根茶の優秀さを示すことができたと思う」と話しました。

今回の結果は右のとおりです。

【問】産業課・農業室 ☎(56)2226

▶普通煎茶4^キ(上位順に記載)

- 1等…▷相藤園 相藤令治
- 2等…▷つちや農園 土屋鉄郎
- ▷川崎好和
- ▷ティーサークル徳山
- 代表 中野利広

3等…▷相藤農園 相藤直紀

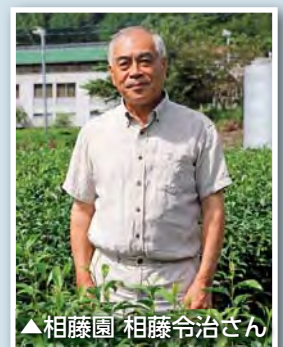
▶普通煎茶10^キ

32位…丹野園 丹野浩之

▶釜炒り茶

36位…瀬沢製茶共同組合 組合長 瀧尾輝久

89位…川根本町茶業振興協議会 ヒロヲ茶生産組合



▲相藤園 相藤令治さん

とも 川岸に灯された幻想的な盆送り火 8/16

下長尾地区で伝統行事「百八たい」が開催されました

下長尾地区前の大井川河川敷にて盆の送り火「百八たい」が行なわれ、区民や帰省中の家族連れなど、約100世帯が参加しました。

僧侶の読経と七夕飾りの焚き上げ後、初盆を迎えた家庭から順に、40軒ほどに積み上げたまきに火を放ちました。川岸に沿って並んだ炎が辺りを幻想的に照らし、対岸や橋の上の見物客を魅了しました。百八たいは同地区で続く伝統行事で、由来は定かではないものの、江戸時代に発生した鉄砲水の犠牲者を慰霊する川施餓鬼を起源とする説が伝えられています。



勢いよく燃え上がったたいまつが川面を照らしました

動画
de
広報

8/26

8/27

「動画」でまちの魅力の発信を

動画で地域の魅力を発信する「住民ディレクター」の養成講座が始まりました



スタジオ形式の即興3分番組を体験した参加者

住民自らが企画・出演・撮影などを担い情報発信を行う「住民ディレクター」の養成講座の第1回目が、山村開発センターで開催されました。

全国50以上の地域で養成、普及に努める岸本晃さんが講師を務め、参加者は即興3分番組の制作や町内での取材体験を実践しました。

岸本さんは、参加者が撮影した動画を講評した上で「地域住民しか知らないことや地域の独自性を動画で町内外へ発信していくことで、まちの魅力や住民の愛着心がより高まっていくはず」と参加者に呼び掛けました。

交流通じ地域の「食」への思い新たに 9/13

町内で中部6市町の食推協が交流、それぞれの活動への理解を深める

県健康づくり食生活推進協議会中部連絡会と県中部健康福祉センターは、本川根B&G海洋センターにて地域交流会を開催し、6市町(焼津・藤枝・牧之原・島田市と吉田・川根本町)から推進員ら102人が参加しました。参加者は体育館にて輪投げや球技などのレクリエーションで汗を流した後、昼食を食べながら市町ごとに日頃の活動内容について発表しました。町食推協の森下升美会長(奥泉区)は「他市町の活動も参考にしながら食推協の魅力を発信し、地域の食生活を守っていきたい」と話しました。



▶ ヤマメや野菜など、町内産の食材がふんだんに使われた昼食

▲ イベントへの参加や「おさそい会」などの取り組みを発表